



K.UNO NEWS LETTER

Vol. 22

ケイウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。
この広報通信では、毎月1回、ケイウノのジュエリーやオーダーメイドに関する
さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けします。



一生身につける結婚指輪。
自分たちの手を加えることで、特別なものになりました。



コンシェルジュとの出会いがきっかけで、
結婚指輪をDIYした片見裕司さん、葉子さん

ここ数年、インテリアや小物などを手作りするDIYが注目されています。

ケイウノでも、2015年10月から自分たちで結婚指輪を手作りするDIYサービスを開始。店舗に併設する工房で、ジュエリー職人のサポートを受けながら、本格的なジュエリー製作を体験できることがご好評を得ています。

これまで1700名以上のお客様にご利用いただき、店舗数もスタート当初の3店舗から全国14店舗に拡大。扱う対象アイテムも、婚約指輪・結婚指輪、ペアリング、ネックレス、バングルと幅広く展開しています。

今回は本年9月、横浜元町店で結婚指輪をDIYされた片見裕司さん、葉子さんとご夫妻をお招きし完成した指輪を拝見しながら、DIYに至った理由や実際につくってみた感想をおうかがいしました。

コンシェルジュとのご縁を感じて

式場を探して結婚情報誌が運営する相談所(カウンター)に行った時、たまたまケイウノのフレイヤーを見つけて、横浜本店を訪ねてくださったというお二人。

— 初めてのケイウノはいかがでしたか。

裕司：最初はちよつと緊張していましたが、対応してくださったコンシェルジュの方との会話がすごく楽しくて！お茶やお菓子をいただきながら、ごく自然にいろんな話をさせていただけいました。

葉子：そのうち、彼の趣味のマラソンの話から「来月、金沢マラソンに出るんです」と伝えたら、なんとコンシェルジュの方が金沢出身で。さらに話が盛り上がってすっかり話し込んでしまいました。

いろいろな話題で盛り上がる中、「ジュエリーDIYサービス」についてご提案したところ、お二人のアンテナが反応。
結婚指輪のDIYにチャレンジすることに。

— それまでにDIYのご経験はあったのでしょうか。

葉子：私自身は手作りすること自体は好きで、自分たちのイニシャル

ボードをペイントして飾ったり、彼がマラソンで走る時のお守りを手作りしたり…。でも、そんな程度です。

裕司：結婚指輪をつくる時って、「既製のものを買う」「オーダーメイドする」「DIY・自分たちでつくる」の3つだと思うんですが、最初はDIYの存在を知らず、オーダーメイドを検討していました。DIYができると聞き、結婚指輪は一生身につけるものだし、自分たちの手を加えることで特別なものになると思いました。

葉子：それに職人さんがちゃんとサポートしてくださると聞いて安心しました。しかも、その職人さんがコンシェルジュさんの旦那様だとお聞きして、これもご縁だと。ぜひつくりたいとお願いしました。

婚姻届を提出した日に 結婚指輪をDIY

こうして、DIYにチャレンジすることになったお二人。事前にデザインナーとの打ち合わせもすませ、いよいよ迎えたDIY当日は、なんとお二人の入籍日。午前中に婚姻届を出したその足で、横浜元町店にいらしてくださいました。

— 当日の様子を教えてくださいませんか。

裕司：入籍は彼女が大好きなドラえもん誕生日に。午前中に入籍をすませて、12時くらいにお店にうかがいました。入籍とDIYを同じ日にしたのは、大切な入籍の日に、大切な指輪をDIYしたかったから。

葉子：当日、お店のスタッフの方々が素敵なお花を用意してくださって！お茶のコースターにもデザインナーさんのお祝いの文字を描いてくださり、感動しました。

— 実際に工房に入ってつくられたんですね。

裕司：そうですね。二人でエプロンをつけて、指輪の素材はプラチナだったので、曲げたり叩いたり丸くしたり…。溶接の時は裸眼では危ないというので、遮光メガネもかけて。

葉子：そういうことってなかなかできないので、とても貴重な経験でした。しかも職人さんがずっとそばについてアドバイスしてくださるので、安



リンク状に加工する前のプラチナの角棒



2000℃にもなる高温の炎で、指輪の端をつなげる「ロウ付け」

心して作業することができましたね。
裕司：僕たちが手がけたのは、指輪の土台づくりと、お互いのイニシャルを入れるところまで。ダイヤを入れたり、ミル打ち（金属の丸い粒を連続で打つ装飾技法）などの最終仕上げは職人さんがやってくれました。

— イニシャルも刻印されたのですね。むずかしくなかったですか。

裕司：丸くなった指輪の内側に刻印を打つので、結構むずかしくて。お互いの指輪にイニシャルを打ち合ったんですが、実は、手先に関しては彼女が

器用、僕はそうでもない。なので、僕の彼女の指輪に刻印することに最初は抵抗してましたね（笑）。

葉子：そう。自分のは自分で刻印するとか言って（笑）。ところが、実際にやってみたら彼の方がとても上手で！ 私はちよつと…。

裕司：味があるというか、ハンドメイド感があるというか…。

葉子：もう、一生言われると思います（笑）。



おそろいのエプロンを着けて、リングを真円にする作業中



完成したリング。要した時間は約3時間ほど

ずっと身につけていたいのので、さりげなく自然なデザインに

— 実際完成した指輪をご覧になつていかがでしたか。
こうしてできあがった結婚指輪を受け取られたのは奥様の誕生日。どこまでも節目の日にこだわったというお二人です。

裕司：そうですね。もちろん楽しみではありましたが、もし思っていたのと違つたらどうリアクションすればいいのかなつて。

葉子：ドキドキだつたんですが、箱を開けてみたらもうそんな心配はどこかにいつてしまつて！想像以上のものがそこにあつて、すごく感動しました。

裕司：内側の刻印を見た時に、ああ自分たちでつくつたんだなと実感できましたね。



自然体のお二人にぴったりなデザイン

— 素敵なデザインですが、どんなところにこだわられたのですか。

裕司：いえ。実はデザインに関しては特にこだわりはなかつたんです。ケイウノさんのサイトを見ると想い出の何かをモチーフにされたり凝つたデザインが多かつたのですが、僕たちは別になくて。

葉子：デザインにこだわるといふより「自分たちの手をかけてつく

る“ということが大切でしたね。

裕司：なので、デザイン自体はいろいろなお店やサイトを見て、いいなと思ったことをデザインナーさんに伝えてまとめてもらいました。

葉子：彼の指輪に入っているブランドダイヤは、コンシェルジュの方がいらした指輪に入っていて素敵だな。

裕司：周りを見ても男性でダイヤが入った指輪をしている人はいないんですが、ブランドダイヤはオシャレな感じなのに悪目立ちしない。これなら抵抗なくつけられると思います。

— 確かに言われないとわからないいくらいですね。さりげなさが魅力ということでしょうか。

葉子：その通りです。私もダイヤは入れたかったけど目立つのは好きじゃなくて。3つを寄せてしまうとキラキラ感が出てしまうので、デザインナーさんに相談したら、少し間を開けると派手にならないと提案してくださいました。確かに自然な感じでとても気に入っています。

裕司：指輪の存在感が強すぎると場によって外さないといけない制約が出てきます。僕たちはそうしなかったたので、目立たず自然に、がキーワードでした。

— 最後にDIYについて、感想を。

裕司：DIYって、もっとハードルが高い気がしていたんです。でも、こうしてできあがってみると、自分たちが手かけたものを身につけられることが嬉しいですね。

葉子：自分たちが手をかけることができ、しかも最後はプロの職人さんに仕上げてもらえるという安心感もある。ダイヤの入れ方もいろいろアドバイスしていただけて、とても満足しています。

— お話をうかがっているだけでもハッピーオーラがあふれます。結婚後は、健康であることをベースにいつまでも相手を思うことに重きを置くことを大切にしたいと話してお二人。
どうぞ末永くお幸せに！



お二人のDIYをサポートした町田クラフトマンと一緒に



ケイウノオリジナルの額に入ったデザイン画と完成した指輪

12月の誕生石「トルコ石」

エキゾチックな魅力にあふれる青いバラは、トルコ石のルースにカットを施したもの。自然界には存在しない青いバラを、現実のものとした長年の研究に因んで、花言葉は「夢かなう」。大きめのものはリングにしたり、小さなバラルースはピアスやイヤリングにしてもチャームング。

